

バローと大垣市社協、市が設置

余った食品はポストに



フードドライブポストに食料品を入れる石田仁市長(右)と
金森勤会長＝大垣市本今町、バロー大垣南店

西濃で初 必要な家庭を支援

バローホールディングスと大垣市社会福祉協議会、同市は22日、家庭で余った食料品を必要に人へ届ける「フードドライブ」のポストを同市本今町のバロー大垣南店内に設置した。家庭で必要なくなった食料品を入れると、支援が必要な家庭へ届けられる。同社としては県内6台目で、西濃地域では初。コロナ禍により経済的に困窮する家庭が増えており、今後は市内にあるほかのバロー3店にも順次設置し、フードドライブの普及啓発にも取り組む。

(宮本寛)

同社は昨年、自治体や社会福祉協議会と連携して自社のスーパーやドラッグストアに同ポストを設置。県内では各務原市に1台、恵那市に4台ある。多くのポストで、毎月10以上の食料品が寄せられ、店で買った商品をそのまま投入する人もいるという。

円筒形のポストに投入できるのは、常温保存できる未開封のもので、賞味期限が1カ月以上あるもの。缶詰やレトルト、インスタント食品、米、菓子、乾麺、飲料(アルコールを除く)が多い。定期的に同協議会が回収し、子ども食堂の運営や経済的に困窮する家庭への配布を行う団体に届ける。

店頭で設置式があり、同社サステナビリティ推進室長の秋元武さん、同協議会の金森勤会長、石田仁市長らが出席。石田市長や金森会長が早速、食料品を投入した。秋元さんは「3者が連携してお客さんとなつたり、心を届けたい」と語った。